

市内でいきいきと頑張る企業をご紹介！
地元就職を考えている学生の皆さんも必見ですよ

株式会社山本製作所

緊急修繕から高度な特注品まで オンリーワンの対応力！

昭和12年、大牟田市の山本商店から始まったSYCグループの山本製作所。製缶・大型の機械加工・組み立て・試運転までこなす当社は、幅広いニーズに応え、お客様と厚い信頼関係を築いてきました。

わが社のここがイチ押し！

100分の1ミリ単位の匠の技！

半世紀以上にわたり、地域のものづくりを支えてきた当社には、さまざまな実績とノウハウがあります。

今はコンピュータの数値制御で行う仕事は主流ですが、精緻を極めた匠の技術は会社の財産。熟練技術を若手に伝承すべく、匠と若手が共に頑張っています。

わが社のいきいき Boy

奥が深いものづくりの世界に挑戦の毎日

機械加工をやってみたくて、ハローワークで当社を発見。ここまで実績がある会社なら、ぜひ働いてみたいと思いました。未経験でしたが、多くの先輩にご指導いただき、すっかりものづくりの奥深さに魅了されました。



鉄工事業部
大津丈二さん(31)

現在入社8年目、大型の加工機を操作しています。専門的で高度な技術が必要とされるので、日々勉強しながら奮闘中です。うまくいかないこともあります。工夫して出来上がったときの達成感が喜びですね。これからも高い技術を身に付け、新しい機械にもどんどん挑戦していきたいです。



▲大津さんが操作する五面加工機(MCR-A5C II) この他にも、大型機械設備が多数あります



【企業概要】

■所在地

荒尾市高浜字前 1825-51(荒尾鉄工団地内)

[本社] 大牟田市西宮浦町 11 番地 25

■業種 製造業

■主な仕事内容 船舶用エンジン部品・原子力(キャスク部品)・水処理機器・トンネル掘削用機械の修理・販売

■資本金 4,950万円

■売上高 7億2,000万円

■従業員数 55人(グループ80人)

■連絡先 ☎68-1618

■ホームページ

<http://www.syc-group.jp>



●Pick Up!

良い仕事は仲間との絆あってこそ

食事会や慰安旅行など、楽しいイベントでは毎回盛り上がっています。



部長からのメッセージ

中小企業だからこそ追及できる醍醐味

多くの大手企業向けの製品を製作し、信頼を頂いて今に至ります。当社ご指名での発注も度々です。中小企業であっても、大手にはない柔軟さでニーズをキャッチすれば可能性は無限大。自主性を重んじる自由な社風です。一人一人の創意工夫がしっかり反映される職場です。



製造部長
野田憲一さん

一人一人の創意工夫がしっかり反映される職場です。

中学生の税についての作文

平成30年度中学生の税についての作文(主催:税を考える週間実行委員会)に、荒尾・玉名地域の中学生から1,675編の応募があり、本市からは次の3人の作品が優秀作品に選ばれました。荒尾市長賞の海陽中3年・龍野美沙紀さんの作品を紹介します。

●荒尾市長賞

『租税教室を通して思ったこと』

荒尾海陽中学校3年 龍野美沙紀さん

●荒尾市教育長賞

『知らなかった「入湯税」』

荒尾第四中学校3年 川原彩香さん

●玉名荒尾地区青色申告会連合会会長賞

『税が救ったもの』

荒尾第三中学校3年 柿本楓さん



荒尾市長賞
『租税教室を通して
思ったこと』
荒尾海陽中学校3年
龍野美沙紀さん

今年、学校で租税教室が行われた。その際配布された資料の中で、少し気になったのが熊本県の予算である。歳出中の3.2パーセント、約263億円が災害復旧費にあてられていた。私は本当に税金は大切な制度だと改めて感じた。2年前の4月14日、熊本を震源とする大地震が起きた。たくさんの被害がでて、たくさんの方が亡くなった。熊本のシンボルである熊本城も壊れ、完全に立ち直るのに何十年かかるとされている。しかしこうした税金の制度のおかげもあり、熊本はだんだんも

との熊本に戻ってきた。人や町を救うための資金として税金が使われていて、なくてはならない存在だと思えることができた。そんな事を思っていた矢先に、また日本で大きな被害がでてしまった。西日本を中心とした豪雨の影響で、200人以上の人が亡くなり行方不明者も数多くいる。私はニュースを見ながら、被災地の人は苦しう辛い毎日を送っているんだろうなと思つた。なので、税金を被災地のためになることにもっと使つてほしいなと思つた。熊本も復興してきてはいるが、まだまだ仮設住宅での生活を余儀なくされている地域がある。そのような現実を改善し、一刻も早く被災地の人がもとの生活に戻れるようにするのがこれからの税金の課題だと思つた。

それに比べて私達のくらしの中での税金はどうだろうか。私は達は教科書を無料で使えて、机や椅子を使えて、当たり前の日々を送れている。私は租税教室が行われるまで、大事な制度だとは知っていたけれど正直厄介だと思つていた。もうすぐ税金の引き上げが実施され、何かとお金がかかるなと思つていたからだ。しかし、今回税について学んだり被害の状況を知って、二つ思つたことがある。一つ目は、もっと税金について知る機会があったらいいなということだ。実際今回学ばずには税金のすごい制度について何も知らなかった。税金への関心を高めれば、みんなが税金についていい印象をもつんじゃないかと思つた。二つ目は、当たり前の毎日が送れていることに感謝しようということだ。税金があるおかげで私たちの当り前は作られていたんだなと心から思つた。

今回租税教室でたくさん学ぶことができ、本当に良かったなと思つた。学んだことや考えたことを忘れず、毎日を過ごしていきたい。